

# 強度行動障害実践事例報告

---

## 排泄関係 1

### 本人の状況

自閉症、A 1

コミュニケーション：「おやつ」「おしっこ」など特定の言葉や歌のフレーズ等の表出あり。

こだわりが強く自己刺激的で多動。強迫的反復行動が著しい。興味物に歯や顔を当てることがある。

### 問題とされた行動

「自室での排尿（便）の失敗」他利用者の衣類破りが課題としてあり、自室で過ごしていただく時間帯に排泄失敗が続き、不適切な行動を学習した。トイレでは、便器に歯をあてる行動が見られていた。

### 取り組み経過

#### ・データ収集

タイムリーにトイレ誘導するために排泄パターンを記録し、及び過去の経過を再確認した。

#### ・状況の分析

朝、午睡時、夜間を通じ、目覚めた直後に排泄の失敗が多い。

自室から出た際（日中活動時、入浴時、医療受診時等）にトイレの前を通ると毎回必ず立ち便器に向かい、居室で排尿失敗直後でも絞り出すように再度排尿している。また自室に戻る際も毎回必ず立ち便器に向かい再び絞り出すように排尿する。立ち便器で排尿後、毎回必ず便器やその他の決まった部分にルーティン的に歯を当てる。

自宅には立ち便器は無く洋式便器のみ。自宅ではその様式便器に歯を当てることは見られていなかった。

自室からホーム外に出るまでの動線上にトイレがある環境になっている。

#### ・対応策

ステップ1：「尿意にタイムリーなトイレ誘導の試み」

データから「起きた時」にトイレ誘導実施。モニター観察により起きた時に直ぐにトイレへ誘導したが、間に合わず失敗は減らず、効果が出なかった。誘導が間に合ってトイレで排泄（尿・便）できてもその後立ち便器に歯を当てることは続いた。トイレ入り口を目隠ししたが効果は無かった。

ステップ2：環境面からの取り組みとして「トイレがある部屋への変更」

他利用者居室への侵入リスクから自室で一人で過ごしてもらう支援は継続せざるを得ず、タイムリーなトイレ誘導は効果が得られなかった為、トイレがある部屋に居室変更することとした。新しい部屋の位置・環境は、部屋の中に洋式ポータブルトイレが設置してあり、部屋から活動先（日中活動、入浴、受診等）への動線上からトイレが外れている。

自室にトイレがある事を認知してもらう為、自室から出る前に「排尿促し」を統一して支援した。ポータブル内に排尿・便を確認した場合は直ぐに片付けるようにした。

平成 26 年 12 月中旬に部屋を移って、便は 1 か月程度で、尿は 5 ヶ月程度要したがそれぞれ失敗ゼロ（ポータブルへの排泄の定着）となった。

### ・取組結果

平成 26 年 12 月中旬に部屋を移って、便は 1 か月程度で、尿は 5 ヶ月程度要したがそれぞれ失敗ゼロ（ポータブルへの排泄の定着）となった（図 1）。

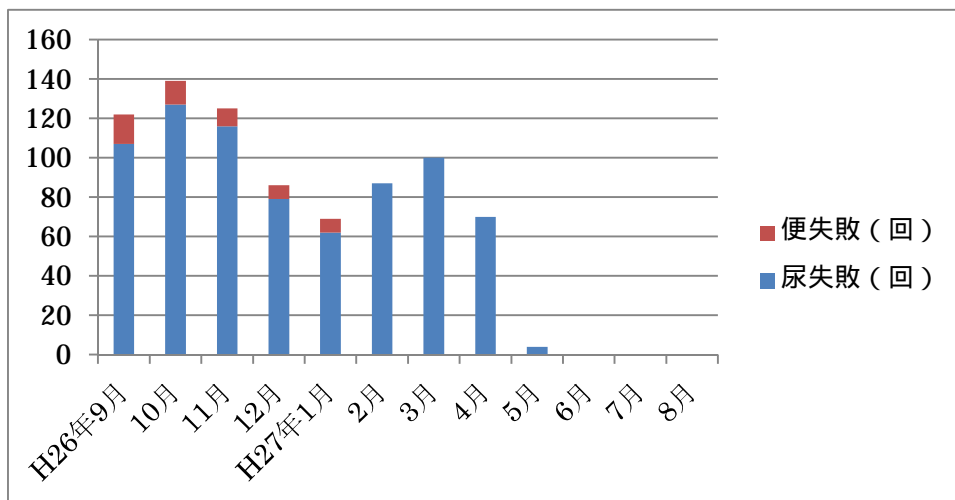


図 1 排泄失敗回数

ホームを出るまでの動線上からトイレが外れたことで、立ち便器へ歯を当てる行動が大幅に減った。自室の洋式ポータブルへ歯を当てる行動は、これまでのところ観察されていない。

### <まとめ>

- ・環境へのアプローチにより効果が得られた。
- ・定時トイレ誘導による支援は間に合わない事が多く効果的手法とはならず、また、活動（日中活動、入浴、受診など）に向かう動線上にこだわり対象のトイレがあり、そこにトイレがある事は認識しているため目隠しでは効果はなかった。一方、トイレ前を通過することが無い動線構造ではトイレに向かうことはほとんどなくなったことから、完全に視界から外す視覚統制が有効であると評価できる。

---

掲載日 平成 28 年 3 月 2 日

この文書の所管所属は七沢学園です。